

令和元年5月26日現在

機関番号：13301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H06708

研究課題名(和文) 中英語聖人伝写本の編纂にみる中世後期英国のナショナル・アイデンティティの形成

研究課題名(英文) The Construction of National Identity in Late Medieval England: An Analysis of Compilations of Middle English Hagiographic Manuscripts

研究代表者

菅野 磨美 (Kanno, Mami)

金沢大学・外国語教育系・助教

研究者番号：20805329

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、1年半にわたって、中英語で書かれた聖人伝写本の編纂から、中世後期イングランドにおける中世後期イングランドのナショナル・アイデンティティの形成について考察した。イギリスの聖人・聖女伝を収めた中英語・ラテン語聖人伝の全体像を把握し、研究対象となる写本の選定を行い、ケーススタディとして、北部イングランドの聖女伝に焦点を当てた。その後、未刊行テキストの転写を行い、テキストの精読によって、中世後期イングランドにおけるナショナル・アイデンティティの形成の一例を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、あらゆる時代の文学がさまざまな方法で描いてきた「イングランド」という国家と国民意識の形成を、中世の聖人伝テキストからその一例を示したことである。また、その過程で、これまでに校訂本や校訂テキストとして出版されてこなかった未刊行テキストを焦点を当て、海外所蔵の中世写本を精査し、資料を用いることで、これまで見逃されてきたテキストの存在を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：This one-and-a-half-year project focused on the construction of national identity in late medieval England through an analysis of the compilations of Middle English hagiographic manuscripts. First, it examined an overview of hagiographic collections in Middle English and Latin which contain the legends of native saints of the British Isles. Then as a case study, it focused on a female saint from Northern England, and examined her legends by reading unpublished texts from medieval manuscripts.

研究分野：中世英文学

キーワード：中世英文学 中英語聖人伝 聖人崇敬 写本研究 ナショナル・アイデンティティ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究課題の着想を得るきっかけとなった『南部英語聖人伝』は、断片を含め 60 以上の写本が残り、現存写本の数からも、中世イングランドで最もよく読まれた代表的な作品であるが、それにもかかわらず、同作品はその価値に相応しい議論がなされてこなかった。とりわけ、文化的・社会的文脈に位置付けて論じた研究が少ないことが顕著であり、同時代の聖人伝集の研究に比べると明らかに遅い歩みをたどっていることが研究を進める過程で明らかになった。長い間、『南部英語聖人伝』の先行研究は、Klaus P. Jankofsky (1992) が編集した論文集 *The South English Legendary: A Critical Assessment* と、Anne B. Thompson の *Everyday Saints and the Art of Narrative in the South English Legendary* (Aldershot: Ashgate, 2003) があるのみだった。2011 年には、本作品への関心の高まりを示すかのように、論文集 *The Texts and Contexts of Oxford, Bodleian Library, MS Laud Misc. 108: The Shaping of English Vernacular Narrative* と *Rethinking the South English Legendaries* が相次いで出版されたが、それ以降、本作品に関する研究書は、数点の未刊行の博士論文を除き出版されておらず、その全体像がさらに明らかになることが待たれている。

このような問題意識のもと、これまでの研究では、海外の図書館に所蔵されている『南部英語聖人伝』を含めた中世写本の予備調査を行い、中世イングランドとウェールズで崇敬された五人の修道女・女子修道院長に焦点を当て、中世後期イングランドにおけるジェンダーとローカリティの構築について分析をした。これまでは、『南部英語聖人伝』の特定の聖女伝の構造とそこに描かれた特定のローカリティとジェンダーの解明に取り組んできたが、『南部英語聖人伝』の自国の聖人伝テキストは、国家や国民意識、アイデンティティの形成とそれに対する文学の役割という、より大きな学問的コンテクストで議論することも可能だと考えた。そのため、聖人が表象する地域性の問題を、国民性の問題というさらに大きな文脈での議論に発展させるため、『南部英語聖人伝』を含めた中英語聖人伝集を写本の編纂という視点から論じることに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ノルマン・コンクエスト以降、中世文学がさまざまな方法で描いてきた「イングランド」という国家と国民意識の形成を、聖人伝テキストから明らかにすることである。年代記や中英語ロマンスなど、さまざまなジャンルの文学テキストが中世後期イングランドの国家と国民意識の形成を描いてきたが、中英語聖人伝ほど「イングランド」と「イングランド人」を意識的に取り扱ったジャンルはない。それは中世後期の聖人伝がアングロ・サクソン人のみならず、ウェールズや、アイルランド、ケルト系のバックグラウンドを持った聖人・聖女を積極的に集め、彼らを自国「イングランド」の聖人としてコレクションに編纂したためである。イギリス固有の聖人を集めた最初期の聖人伝集である『南部英語聖人伝』にはその傾向が顕著に表れており、本研究では、中世文学における国家とナショナル・アイデンティティについて議論するための重要なテキストと位置づけ、考察を行った。

3. 研究の方法

まず、初年度(2017年度)に『南部英語聖人伝』テキストの詳しい分析に入る前に、自国の聖人を多く集めた中世後期の聖人伝集の全体像を把握した。写本のカタログや Annotated Bibliography 等を参考にし、イギリスの聖人・聖女伝を収めた聖人伝集を特定した。その後、『南部英語聖人伝』の写本体系の調査をし、研究課題である国家・国民意識の形成を論じるためのイギリス固有の聖人・聖女伝を収めた写本を選定した。その過程で、イギリス固有の聖人・聖女の中でも、北部イングランド・ウィットビーの大修道院長だった聖ヒルダに焦点を当て、ケーススタディを行った。

春季休暇中に渡英し、大英図書館(ロンドン)にて、選定した写本の調査をし、未刊行テキストの転写を行った。また、滞在中にウィットビーに行き、大修道院跡や教会、博物館に赴き、フィールドワークを行い、資料を収集した。

次年度(2018年度)は、前年度に引き続き、渡英中に収集した写本の画像データから、未刊行テキストの転写を行った。その後、テキストを精読し、国家・国民意識形成について考察した。テキストの精読とともに、ナショナル・アイデンティティの形成について理論的に強化するため、聖人伝の分野以外で中世イングランドにおける国民文学について論じた二次文献を参照し、近年の中世文学の批評の文脈に位置付けることを心掛け分析を行った。また、追加調査として、8月に大英図書館(ロンドン)、ボドレー図書館(オクスフォード)、ケンブリッジ大学図書館で、これまでの調査と考察の結果を論文にまとめる際に必要な追加調査をし、中世写本の画像データの収集と転写を行った。

4. 研究成果

本研究課題の成果として、ケーススタディとして取り上げた中英語の聖ヒルダ伝に関する分析を行ったことが挙げられる。7世紀ヨークシャーのウィットビー大修道院の女子修道院長であり、アングロ・サクソン時代のイングランドを代表する自国の聖女だったヒルダの聖人伝テキストが、アングロ・サクソン時代の聖人・聖女伝を網羅的に収集した『南部英語聖人伝』に含まれていないことを出発点に、14~15世紀の聖人伝写本においても、他の聖女伝と比べ圧倒

的に少ない理由を、文学ジャンルの違いや聖女伝に用いられる主題の変化に着目して考察した。7月にイギリス・リーズ大学で開催された International Medieval Congress において、スイス国立科学財団プロジェクトの Late Medieval Devotion to Northern English Saints が企画したセッションで研究発表を行った。本学会では、他の発表者との意見交換を通して、今後の研究の方向性や研究手法に関して多くの示唆や着想を得ることが出来た。発表内容は、論文にまとめ、何らかの形で出版できるよう準備を進めている。

また、本研究課題のもう一つの重要な成果として、今後の研究の方向性を修正するに至ったことも挙げられる。中世後期イングランドの国民意識やナショナル・アイデンティティの形成について考察を重ねるあいだに、国民的・国家的な概念に焦点を当てたナショナリズムより、多様性をはらんだ個々の地方に焦点を当てるほうが、近代以前の中世イングランドでの聖人崇敬の実情に即しているのではないかと考えた。また、聖ヒルダのような特定の聖人崇敬の研究において典型的な問題である、聖人伝テキストの少なさに関しては、上記の国際学会への参加を通して、典礼テキストを資料として用いることの有用性に気づくことが出来た。そのため、今後は、聖人伝などの文学テキストに限らず、典礼写本に収められた教会暦や連禱を補完的に用いて、研究を進める予定である。

< 引用文献 >

Bell, Kimberly K., and Julie Nelson Couch, eds, *The Texts and Contexts of Oxford, Bodleian Library, MS Laud Misc. 108: The Shaping of English Vernacular Narrative* (Lieden: Brill, 2011)

Blurton, Heather, and Wogan-Browne, Jocelyn, eds, *Rethinking the South English Legendaries* (Manchester: Manchester University Press, 2011)

Jankofsky, Klaus P., *The South English Legendary: A Critical Assessment* (Tübingen: Francke, 1992)

Thompson, Anne B., *Everyday Saints and the Art of Narrative in the South English Legendary* (Aldershot: Ashgate, 2003)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

Mami Kanno, "The Absence of Middle English Lives of Saint Hild of Whitby", International Medieval Congress, 2018.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。